

新刊紹介

といふことは特筆すべき佛教の進出である。

心の (Bespr. von Sasaki)。

P. V. Bapat : *2500 years of Buddhism.* Foreword by Radhakrishnan Government of India, gloss-

ary, Bibliography, Index 1956 Rs.
6 12s 6d \$2. pp. 503

佛教が印度を中心とする東洋に擴がり今や廣く東洋文化を代表する遺産として世界の思想界に登場した。從來は各部門、各地域的限定をうけて佛教全體を取り上げることが少かつた。それのみならず佛教思想の政治的役割といふものも見逃すわけにはゆかない。

新しく世界に登場した佛教思想の全體的把握と二十世紀に處する佛教的イデオロギーの宣揚といふ二つの意味に於て佛誕二千五百年記念事業として世に出たのが本書である。一九五六年印度政府の熱

その部門は廣く原始佛教々團史、アシヤに於ける傳導史、文獻史、美術、教育、世界各國に於ける佛教研究の狀況、現代に於ける佛教の課等を網羅し、更に文獻、教團史についてのチャート並に美術真をも挿入してあるのは一般的のためのみならず専門の學徒をし裨益するところがあらう。日本佛教學界についての所論も見える。

編集者バーラット教授の綿密な計畫は各論項の擔當者として自由な問題題列に終らしめずより一層、立入った調査研究を促して學術書としての成功をおさめしめた。

出版後間もなく初版はつき既に第二版は一九五七年十月に世に出ることになつてゐる。政府は記念出版といふ意味で特に廉價にして一般人士に便宜を與へて揚として印度政府から本書の出版された

博士によつてかれ印度唯一の篤學者バーラット博士によつて編集され、世界各國の學者が各専門の領域から懇切な解明を與へてある。

本書は梵文原典のチベット譯とその獨譯並に辭典からなつてゐる。

一九五〇年ノーベル教授は金光明經の藏文並に梵藏獨三ヶ國語による辭典を出版してその精密さは斯界を驚かせた所であつた。此れに引續いて出されたのが藏譯 *Udrāyanāvadāna* のグロッサリーである。此のグロッサリーでは例へばチベットの標語があらはれてゐる場合、動詞の語根と共に現在形をあげそれに獨譯を附し更に梵語原典の個々の典據を與へてゐる。さういふ點では光明經のグロッサリーよりも一層、讀者に便を與へてる。

元來、梵藏兩譯の對照をとりあつかる場合、問題となることは如何なる梵語が西藏語の譯であるか、又、それが如何なる範圍で取意的に譯されてゐるのかといふことである。その際、梵語を主として

藏語を此れにまで溯源してしまふといふことはかなりの注意を要する。所謂藏譯からなされた還元梵語は却つて誤った結論に導くであらう。藏譯からの還元梵語とは實は單なる梵譯に過ぎない。丁度英譯と同じものでしかない。梵語原典が缺けてゐるのに梵語への還元といふこともありえまい。その梵語は主觀的構想に過ぎない。往々こうした構想的梵譯が重要な問題を誤解に導く結果を來たすことが多い。たとへ梵語原典であってもヴェーディックやミッドル・インディック、方言等の混合であり又、その梵語化にあへ誤った梵語化が見られることがあるのであるから、それを無視して藏譯から梵語を作り出すとすれば危險であらう。作り出された梵語は一體、言語學的に如何なる意味と權威を持ちうるであらうか。還元梵語といふことはありえない。梵譯といはるべきであるといふのが新しい學問的反省となつて來てゐる。藏譯は純粹に藏語そのものから一特に理解しえない語以外は一考へるべきであらう。

譯者の立場に立つて如何なる程度で彼が言葉の選擇をなしたか、そこから我々

のチベットの知識が何を学び得るかといふ根本的問題を考へつつ藏語分析をなすべきであらう。かういつた諸點が考慮されるときチベット譯語研究に對して價値が生れてくるのではないか。ここにグロッサリーの持つてある價値があらう。

グロッサリーは以上のべたやうな場合に價値を與へる。又、それのみでなく更に次の場合に於ても眞にグロッサリーの意味と價値が見られる。即ち梵藏辭典では同一の言葉が諸様の仕方で譯され、諸様の表現を與へられてゐるのであるがそれを *nachprüfen* する可能性はない。

ノーベルのグロッサリーは獨立した言葉に文法上の要素を分析して與へてゐる許りでなくシントックスを出して典據づけてゐる。ホイットニーの梵語文法以外にチベット語文法でこうした研究が未だ現はれてゐないやうであるが此の操作で文法上の要素の分析的研究とその實例とが相まって完全なるものとして呈出せられてゐる。その外、他のテキストに對するノーベル自身の講義ものせられてゐる。

Frauwallner: 'The Earliest Vinaya and The beginnings of Buddhist Literature. Roma 1s. M.E. O. 1956 XI. pp. 218

本書は Serie Orientale Roma VIII として出たものである。

律が初期佛教文獻研究のために持つてゐる意味は大きい。衆知の如く律典を傳持してゐる部派は Sarvastivādin, Dharmaguptaka, Mahīśāsaka, Pāli, Mūl-

出版物はチベット語の將來の語彙に對する注目すべき礎石となつてゐる。

現在ノーベル教授は Vinayavastu に興味を集中してゐる。一九五六年筆者滞

獨中に教授に會つた際、彼は北京版チベットよりも古いグルリン・アウスガーベ

を本としてその研究に從事してゐた。

現代のドイツに於ける一つの新しい研究分野はアグダーナ研究と律の研究に向けられてゐる。チベット律の研究ではハンブルグ大學の Dr. Hamm が Pravarajyavastu のチベット校訂並に獨譯に從事してゐる。(Bespr. von Sasaki)